

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

研究期間中に、研究仲間が東京に所在する大学から京都府への移動があったため、当初想定していた以上に国内の出張頻度が増加した。そのため、国内出張費用は大学の個人研究費で不足金額を補てんした。また、当初予定していた英国でのワークショップでの発表がコロナの影響で、今回は見送られることになった。研究期間中には行えなかった海外発表については、今後も引き続き検討してゆきたいと考えている。

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

三好祐輔・東京都立産業技術大学院大学・教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

都築治彦・佐賀大学・教授、

研究課題名:企業不祥事の抑制に関する理論的考察

研究期間: 2019年7月1日 ~2020年9月30日

概要:(1,000字以内で記述)

(背景)

日本や欧米の有力企業で不祥事が近年多発している。不祥事を起こさないようにするためには、利害関係者間の権限、経営者責任、報酬をどう配分するのかに関する議論は避けて通ることはできない。しかし、未だ日本では十分に実施されていないのが現状である。

(目的)

本研究の目的は、経済理論モデルの構築を通して、企業関係者(経営者-株主)間の契約不履行問題を取り上げ、経営者への業績連動型報酬制度が、企業不祥事を抑制するという点で有効に機能しているかどうかを明らかにすることである。

(結果)

本研究では、不祥事をする誘因を抑制させるために、業績給として現金支給よりも自社の株式保有を報酬契約の中に盛り込むことを提案することができた。また共同研究者達と一緒に構築した理論モデルを用いることで、他のテーマの論文作成にも十分に役立った。以下のように今回の研究成果を挙げておく。

・[Yusuke MIYOSHI](#), Haruhiko TSUZUKI, Hiroaki ITAKURA(2019) "The Effect of Executive Bonuses and Manager Shareholding Ratio on Corporate Scandals", *International Journal of Japan Association for Management Systems*,11(1) ,pp.55-59

・[三好祐輔](#)、都築治彦、亀井省吾、板倉宏昭(2020)「台湾企業大潤発の中国市場進出成功の経営戦略に関する研究」横幹(横断型基幹科学技術研究団体連合) 14(1), pp.83-pp.88,

・川淵丈裕, [三好祐輔](#), 都築治彦(2019)「無形資産が企業価値に与える影響について」九州経済学会年報 57 pp.135 - pp.143.

* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します